

3月分月例報告 その1

令和2年4月7日開示 内野経一郎

正月明け新年を迎え、立春も過ぎ、ついに3月になり4月になってしまいました。
今、書き始めている日本文明論の中間報告を、小冊子「日本文明論試案」として元気に
仕事しているよ！との「デモ」で、別紙の送付書を付けて一部の方々に送付しました。
律儀にお読みくださり感想を下された方々に、感謝と心から御礼申し上げます。

若し私から印刷物が届きましたなら、内野が「自己顕示」のデモやっていると思案して
御放心下さい。

表紙と裏表紙かかげておきます。

小冊子の関心をもって下さる方ありましたら、メールでもデンワでもハガキでも、「送
れ」といっていただければ嬉しく思います。直ぐにお送りします。

「日本文明論試案」表紙

「日本文明論試案」裏表紙

日本のふるさと三州（日向、大隈、薩摩）から読む

日本文明論試案



宮崎市下北方町
八紘一字の基柱 紀元2600（昭和15）年創建

弁護士 内野 経一郎

© 宮崎県民会館



わが胸の 燃ゆる思いに くらぶれば
煙はうすし桜島山

福岡藩士
平野 国臣

七高記念祭歌

北辰斜の歌

歌は悲しき時の母ともなり

うれしきときの友ともなれば

いざや歌はんかな

歌はんかな北辰斜の歌 二番

アイン ツヴァイ ドライ さあ

♪ 紫さむる黎明の

静けき波に星かぞへ

荒涼の氣に咽ぶとき

微吟消え行く薩摩渚

不屈の色もおごそかに

東火をはく櫻島 ♪

© 鹿児島市

令和 2 年 1 月吉日

お世話になっている皆様方へ

辯護士 内野経一郎

送 付 書

『日本のふるさと三州から読む「日本文明論 試案」』をお届けします。

平成 30 年 2 月 11 日、三州倶楽部創立 100 周年記念東京式典が行われました。

式典で、衆議院議員小泉進次郎先生の御講演がありました。

小泉先生は、先ず、日進月歩の国際社会の変化に対応する政治運営、特に国会効率化の決意を表明されました。

更に塩野七生先生の「魚が腐るときは頭から腐る」との例えをひいて、「国の頭たる政治が腐らないよう、この西郷を生んだ地の同根の仲間として鍛えていただくことを期待する」と結ばれました。

大成される方であろうと、納得できるご講演でした。

小泉先生は、尚、先生が大好きと言われる作家の御本を引いて、西郷隆盛を話題にされました。

(1) 伊集院静先生の御本からは西郷星のことを語られました。

西南戦争中、明治 10 年、毎晩午前 1 時を過ぎると、城山から辰巳の方向に燃えるが如き赤みを帯びた巨大な星が現れ、庶民はこれを西郷星と呼んで拝んだとのことである。更に下って時に明治 22 年 3 月、奸賊とされていた西郷が赦免された 1 ヶ月後に、東京の東南の夜空に煌煌と輝く星が出て、市井の人々は、「罪を拭われて、また西郷星が出たぞ」と手を合わせた、というお話です。

(2) そして、塩野先生の御本から、薩軍に従った中津隊隊長 増田宗太郎の事蹟、西南戦争の敗色が明らかになり、中津隊解散の折、皆に帰郷を促した上、自分は城山まで従う、といい、その理由を、「一日西郷に接すれば、一日の愛が生じ、三日接すれば三日の愛が生ずる。親愛日に加わり、今は去るべくもあらず。ただ生死をともにせんのみ」といったというお話のことです。

小泉先生は、この二つの事蹟から、西郷を評価されました。

西郷隆盛は、「ラストサムライ」という映画にもなっています。

武士道は日本精神の華、西郷隆盛は「生きた日本文明」そのものです。

増田宗太郎が西郷に殉じたということは、即ち、日本文明に殉じたことであろうか、と私なりの「日本文明論試案」です。